

石を貼る

My Garden Story
Part 10

一つひとつが異なる個性を持つ天然石。
黙して語らぬこの自然の産物が、
私たちに不思議な温もりと優しさをもたらししてくれるのです。

取材・文◎野神由紀子 撮影◎漆戸美保
写真提供◎Heaven's Garden

おもてなしの心を伝える
ハンドカットの天然石

玄関までのアプローチを彩る、表情豊かな天然石。ただ静かにそこに存在するだけで、私たち人間に温もりと優しさを与えてくれる、不思議なパワーの持ち主です。「温もりや優しさの理由は、人間が本能のどこかで自然を求めているという証。工業規格製品の素材が溢れ、とても便利な時代になりましたが、そうした人口の素材では決して生み出すことのできない自然の風合が石にはあるのです。だから人は、石に癒されるのではないのでしょうか。そう語るのは、天然石をメインとしたO邸のエクステリアを手がけた、ヘブンズガーデンのエクステリアデザイナー釜付さん。

「O邸では、お客様がお見えになったときの、おもてなし感を大切にするために、間口を広く取った玄関アプローチに砂が固まって出来た砂岩という石を敷き詰めました。タイルやコンクリートと異なり、歩いた時に靴底から柔らかさを感じられるんですよ。そして、石は自然の物との相性抜群なので、周囲に土や緑も添えるなど、自然の恩恵をたっぷり注ぎ込みました。」

そして驚くことに、30cm×60cm大の石はすべてハンドカット。「一つひとつ同じサイズに見えて、若干異なるこの手仕事感。職人の腕が光る石のアートなんですよ。」何よりも贅沢は「自然と匠の技」なのだ、改めて気付かせてくれるのでした。

小さな天然石たちの 静かな川辺への誘い

色とりどりの小さな天然石たちに、デザイン性と匠の技をプラス。
するとそこには、唯一無二の味わいある贅沢な風景が浮かび上がりました。



▲マンションのエントランスの階段も砂岩で上品な仕上がりに。



▲石で描くなめらかな曲線の分かれ道が、職人の腕の見せ所。



▲踊り場のある階段、曲線模様のエントランスなど、動きを付けることで限られたスペースを視覚的に広く演出。

天然石の川が流れる 長いアプローチ

ここは、藤沢市にあるとあるマンション。大家さんであるHさんご家族は、このマンションの1室にお住まいを構えています。「Hさんのお宅の玄関は、長く続くアプローチを抜けた先にあります。この贅沢な距離を生かし、川の流れるにつれていくような穏やかで楽しい雰囲気仕上げました。直線で流れを演出することはできませんから、バランスよく半円を描き、それを自然な形で繋ぎ合わせていくことで大きくてゆるやかな流れを生みだしました。」

川の流れを思わせるこのアプローチに敷かれているのは、ピンコロ石という約10cm四方のかわいらしい天然石です。小さいサイズの石の方が、大きな石よりも目地が多くなるため、動きや流れを作り出す際に自由度が高まるのだそう。そして、この「川の流れ」の完成度を決めるのが、「すみだし」という作業。これは、仕上げの際の基準線を墨で記す作業で、まさに職人の腕の見せ所と言える工程です。

「半円をどう組み合わせっていくかがポイントです。二つの流れがごく自然に二つに分かれ、一方はその流れを引き継ぎ、一方は新しい流れを作り出すという、計算しつくされた配置なのです。」

色彩豊かな天然石で、 滋味な風景を敷きつめる

それらのピンコロ石を指差した柿崎さんが「よく見てみてください」と問いかけます。「二見、淡い色で統一されているように見えますが、実は二つひとつの色はこんなにも個性豊かなんですよ。」

改めてそれぞれの石を比べてみると、白、ピンク、オレンジ、イエロー、グレーと、確かに様々な色合いが混在していることに気が付きます。それでいて、この統一感のある配色と高い完成度、熟練の職人ならではのセンスと勘に、図らずも感心のため息がもれます。

「オレンジ系の建物の雰囲気合う色をバランスよく組み合わせているんです。単色で統一するのは簡単ですが、そうなると少し無機質になり、単調になってしまいます。言い換えるなら、深みに欠ける、といったところでしょうか。グレーや白などを入れることによって全体が縮まり、その姿に深みが出てくるのです。」

つまりこれは、料理でいうところの滋味。柿崎さんの言葉に、物も味も人も、様々な要素が絡み合っただけで深みや味わいが沸くものなのだ改めて気付かされます。

「自分としては、広い色幅を持つ天然石で遊んでいる、という感覚でデザインをしています。正直申しますと、施主さんよりも自分の方がエクステリア作りを楽しんでしまっているかもしれません……（笑）」

このように柿崎さんは、エクステリアという舞台で天然石の可能性を自由自在に操り、深みと味わいのある風景を作り上げ続けているのです。

My Garden Story
Part 10

石を貼る

まるでちぎり絵のような乱張りの石英岩と、ゆるやかな川の流れを思わせるピンコロ石のアプローチ。

石 図 鑑

天然石と一口に言っても色々な種類があります。今回はその中で貼石に適した乱形の石をご紹介します。色、堅さ、質感など用途に合わせて使い分けていきます。

取材協力／
(株)トコナメエブコス

デュオストーン

豊富なカラーが特徴で比較的強度の高い石です。多彩なバリエーションがあり重厚な質感です。

アベユ (石英質)



エマーブル (石英質)



ヴァンテ (石英質)



シャルボン (粘板岩質)



ヴェルデ



イエロー



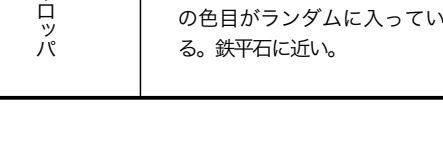
クリスタルレッド



ピンク



クリスタルパール



ピアンコ

エルドラストーン

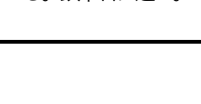
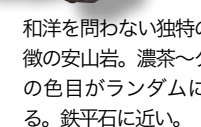
敷材として人気の高い石。ブラジル産の石英石です。フラットで加工性も高い石です。

アインストーン

ドイツ産の石灰岩。別名ジュラストーン。柔和な質感で自然な色幅があります。表面に葉脈状の模様があるものも。

ネグロストーン

和洋を問わない独特の質感が特徴の安山岩。濃茶〜グレーまでの色目がランダムに入っている。鉄平石に近い。



セイボストーン

強度、耐摩耗性の高いアルセシン斑岩。ヨーロッパなどで古くから舗道などに使われている。

マドリンレッド



マドリングレー

自然の産物を持つ 無限の可能性

色幅に自然物との調和など、天然石にはたくさんの魅力が潜んでいます。しかし、石にはもう一つ大きな魅力があると柿崎さんは言います。

「石の感触です。表面がマットだったりつやがあったり、凸凹していたり平らだったり、石は実に表情豊か。しかしどれにおいても共通して言えるのが、踏みしめたときの体感です」。

それは、靴を履いて歩いたときに、靴底に伝わってくる感覚のこと。

「ここが温かみがあるとか……。人口物のタイルやコンクリートに比べると、心なしか感触が優しく弾力があるんですね。人間はこういった自然の物ならではの温かい感

覚に敏感ですから、毎日の暮らしには欠かせない癒しだと思っんです」。

そして、次に案内されたのが、Hさんの玄関の真裏にあたる方向に設けられたマンションのエントランスです。堆積岩の一種である石英岩という天然石を踊り場のある階段に貼り付けた、立体感あるデザインとなっています。

「限られたスペースに広がりを持たせるために、階段の途中に優雅なスペースを確保しました。一段ステージを高くするだけで、視覚的な開放感や広さを実現することができるとです」。

まるでちぎり絵のように石を張り詰めて完成した階段に、表玄関と同じテイストのピンコロ石の流れあるアプローチ。ヨーロッパの古きよき小道のような風情がそこには漂っています。

「このマンションでは、全体を通してマットな風合いの石を用いています。そうすることによって、光沢を抑えた上品な仕上がりが実現できるんですよ。また、先ほどのOさんのお宅同様、天然石と自然物の相性の良さを活かし、緑も取り入れました」。

踊り場のある階段の両脇に丸いスペースが設けられ、その中に凛とした姿で植栽が威風堂々とそびえています。

「植栽の緑をもつと際立たせたい場合は、赤系の石を用いると効果的です。双方の間でコントラストがはつきり出るから、緑に生き生きとした生命力が生まれてきます。たかが石、されど石。一つの天然石が持つ能力は無限にあるんですよ」。

何を語るでもなく、私たちに温もりと優しさを伝えてくれる天然石。何とも不思議なパワーを持つ、自然の産物なのです。

My Garden Story Part 10 石を貼る



エクステリア ガーデニング・ ウッドデッキの専門店



ヘブンズガーデン代表
柿崎 浩司
資格：二級建築士
インテリアコーディネーター
趣味：サイクリング
2003年テレビ東京系「TVチャンピオン（ガーデニング王決定戦）」に出場



ヘブンズガーデン
〒252-0813
藤沢市亀井野 1515
Tel:0466-90-0555

0120-08-6658
www.heavens-garden.co.jp

ヘブンズガーデン

検索